

IPCC-AR5 へ向けた動向

2007年、IPCC第4次評価報告書（AR4）は、第1作業部会（現象）、第2作業部会（影響・適応策）、第3作業部会（緩和策）、統合報告書の順に公表され、過去の3度の評価報告書以上に多くの注目を受けた。第4次評価報告書では、膨大な研究知見の上に立ち、今後予期される温暖化リスクに関して警鐘を打ち鳴らすとともに、早急な対策の必要性を訴える強いメッセージが示された。それを受け、一般市民の問題意識や国内外の政策・対策の動きにも変化があらわれつつある。その一方で、依然、科学的理解の不足が政策合意や対策実施の障壁となる場面があることも見逃してはならない。温暖化問題の解決に向け、それら科学的理解の不足している点は、第5次評価報告書（AR5：第5次評価報告書の作成はまだ正式に決まっていないが、温暖化問題の重要性がさらに増しつつある今日の状況を考えると作成されることは間違いないだろう）に向けた重要な研究課題といえる。

本報告ではまず、AR4までの知見をふまえ、AR5に向けた影響評価研究の重要課題に関して紹介する。次に、きたるべきAR5に向けた動きの一つとして、将来の社会・気候・自然の予測をするための統一的前提となる将来シナリオ（新シナリオ）の開発プロセスについて説明する。さらに、より多くの日本発の論文がAR5で引用されるための戦略について、見解を述べる。

○ 報告の構成

- ・ 影響評価研究の重要課題の紹介
 - IPCC-AR4-WG2の要点整理
 - AR4までの知見をふまえた重要課題
 - ◇ 影響評価の不確実性の取り扱い
 - 気候予測の不確実性を考慮した影響評価の例
 - ◇ 極値現象の変化による影響の評価
 - ◇ 適応策評価と、それに必要な地域スケールの影響評価研究
 - 適応の実施検討を目的とした場合の従来型研究の弱点
 - 適応研究の大きな二つのアプローチ
 - ◇ 開発経路に依存する将来の脆弱性の評価
 - 持続可能な開発と気候変化への脆弱性
 - ◇ 経済評価
- ・ AR5に向けた動向
 - 新シナリオ開発プロセスの紹介
- ・ AR5で日本発の論文の引用を増やすために
 - 研究論文がIPCC報告書に引用されるパス
 - AR5での引用を目指した場合の締切に関する考察
- ・ 影響評価研究の実施に有用な情報源
 - 国内の先行影響評価研究プロジェクト
 - 気候影響評価のために役立つ技術情報
 - 影響評価研究の現状を理解するための情報